



淑徳大学 国際交流センター

# NEWS LETTER

2024 VOL.2

## TOPICS

- ①カナダのトンプソンリバーズ大学英語・異文化研修  
・研修体験記  
・研修がきっかけで生まれた新たな国際交流
- ②体験型研修（スタディツアー）紹介

### ①トンプソンリバーズ大学で英語・異文化研修が実施されました

2024年8月11日～9月1日までの3週間、本学学生12名がカナダのトンプソンリバーズ大学で実施された英語・異文化研修に参加しました。英語学習に加え、異文化コミュニケーションを学び、大自然を満喫できるアクティビティも組み込まれた、3週間の短期英語研修プログラムです。以下2名の参加学生からの体験レポート、そして本研修がきっかけになった新たな国際交流体験をご紹介します。

#### 【人文学部4年 桑原千愛美】

カナダで過ごした3週間は、私にタフな精神力と新しい価値観を与えてくれました。私の人生のお守りになったかのような、かけがえのない時間です。

と言っても、海外渡航ならではのハプニングもありました。まずバンクーバー空港に着いて乗り継ぎをしようとしたら、なんとカムループス空港までの国内線が急遽キャンセル！頼れるのは自分達のみ。空港のカウンターで拙い英語を駆使し、なんとか次の日の振替便とその晩のホテル、タクシー、食事を確保してピンチを乗り切りました。初日にして最大の試練、かなり精神が鍛えられる貴重な経験でした。また、英語が堪能ではない私は到着後の生活もかなり苦戦しました。

ホストファミリーに伝えたいことを伝えられず、同じプログラムを受けていた韓国、台湾、メキシコの子達にも気軽に話しかけられない・・・ですが、英語が上手く喋れなくなると、どうにかなるものです。それより大事なものは、伝えようとする気概・表情・ジェスチャー、そして英語を間違える勇気！言語以外でも人間同士繋がり合えるのだというGlobal citizenの概念を3週間かけて強く実感しました。

カナダでの生活は日本では経験出来ないものばかりです。めちゃくちゃ揺れるバス、丸かじりするりんご、African timeという概念、夜21時の日の入り、身近にある大自然、多種多様な人々とお互いの文化へのリスペクト。毎日、いや毎秒毎秒出会う出来事すべてが私をさらに素敵な人間へと成長させてくれたように思います。



## 【総合福祉学部2年 丸山日奈子】

今回滞在したカムループスは気候が特徴的でした。カナダの中では夏に暑くなる街として知られていて、実際に3週間の滞在中にも気温が30度を超える日が多々ありました。しかし、暑いと同時にとても乾燥している街なので、汗っかきの私でも汗をかくことはほとんどなく快適でした。

湿度が低いと良いことは他にもあって、たとえば、洗面所のタオルやバスタオルは使ってもすぐに乾き、嫌なおいがすることもないので、毎日洗う必要がない。また、お風呂上りにドライヤーで髪を乾かさなくてもサラサラに乾くことにも感動しました。むしろ、日本で頑張ってたドライヤーで乾かした時よりもサラサラでした！

このように私は、湿度が低い暮らしを満喫したが、もちろん乾燥していることで良くない面もあります。ホストファミリーに隣町に連れて行ってもらった際に、20年ほど前の山火事の跡があった。黒くなった木が今もたくさん立っていて、20年も経っているようには見えませんでした。カムループスはあまり雨が降らないが、8歳のホストシスターは雨が降ってくると喜び、ホストファミリー全員雨が好きだというのも印象深かったです。



## ◆トンプソンリバーズ大学研修がきっかけで新たな交際交流が◆

### 【人文学部3年 高田慶之】

2025年2月1日、韓国・東亜大学(동아대학교)の大学生であるキム・ジェドン(김제동、以下「ジェドン」)君を東京で迎えました。食品工学を勉強しているジェドンは、日本の食品工場を見学するとともに、日本の食文化など興味のある分野にふれてみたいとの思いから、今回、福岡や京都、大阪といった日本国内のさまざまな都市を訪れる一大旅行をしており、東京はそのゴール地点でした。

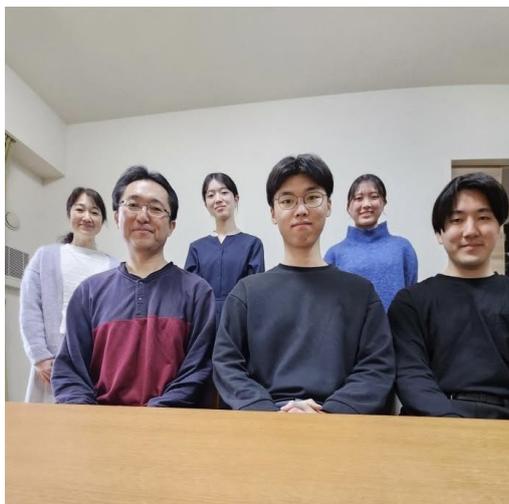
ジェドンとは、2023年8月のカナダ・トンプソンリバーズ大学における3週間の語学研修で出会いました。他の韓国人大学生とともに参加していた彼は、当時既に日本語を勉強しており、ほとんど問題なく意思疎通ができるくらいの実力があつたため、日本人大学生と韓国人大学生との通訳の役目を果たし、日韓の絆を深めることに大きく貢献してくれました。私もジェドンの積極的な姿勢と優しさに惚れ込み、会うとよく話しかけて、いろいろな話をしました。

時は流れて、2024年6月、アメリカ・アラバマ州から、アメリカ人大学生がホームステイにやってきました。私はこれを絶好の機会と思い、そのアメリカ人大学生にとっては「日本語学習の先輩」といえるジェドンを交えて日韓米の交流をしたいと考え、釜山のジェドンにビデオ通話を提案しました。彼は快諾してくれて、無事に日韓米の交流が実現しました。訪日の計画を聞いたのは、まさにその時でした。

お互いに忙しい日々が続いていましたが、SNSを通じたやり取りのおかげで、心理的距離はずっと近く感じていました。そのような経緯で、冒頭の通り、今年の2月1日に、私とジェドンはおよそ1年半ぶりの再会を果たしたのです。

ジェドンとは、池袋のカフェやカラオケを巡りました。また、夜は私の実家に行き、家族とも交流しました。夕食後は、韓国映画の台詞を文字に起こしてもらったり、最近のニュースや歴史について、腹を割って話したりしました。お互いが相手に対する尊敬を忘れずにいたおかげで、正直かつ明るいやり取りができたと思っています。

私の家族との交流では、ジェドンは節分の豆まきを体験したり、日本の家庭料理を食べたりと、日常的な文化にふれる機会がありました。ジェドンが私と私の家族にしてくれた「嬉しそうに迎えてくれたおかげで楽しい時間を過ごせた」という言葉は、まさに国際交流における一つの真理ではないかと思いました。これからも、こうした交流を通じて、今ある関係を深めながら、友情の輪をさらに広げていきたいと考えています。



私の家族とジェドン（前列中央）



節分の豆まきをする様子です

## ②体験型研修(スタディーツアー)の紹介

夏休みや春休みを利用した、語学研修とは異なる1週間前後の体験型研修で外部旅行団体HISが主催するツアーです。研修先はセブ、台湾、ヘルシンキなどで、セブ島研修体験記は2024年7月発行のニューズレター第1号でご紹介しました（以下リンク参照 <https://www.shukutoku.ac.jp/albums/album.php?d=444&f=abm00026247.pdf&n=NewsletterVOL.1.pdf>）。

スタディーツアーでは、『ボランティア』や『ホームステイ』『異文化体験』などを通じて世界では様々な文化や価値観が存在する事実を体感し、自分の視野や可能性を広げることができます。特に、**ボランティア・国際協力に挑戦してみたい方、現地の文化や暮らしを体験したい方、語学研修とは異なる研修に参加したい方におすすめのツアー**です。今回は、その中で台湾・フィンランド・フィリピンのスタディーツアーをご紹介します。

### 【台湾】

東京から約4時間のフライトで訪問できる台湾は、長期はもちろん短期の旅行先としても人気の高い国です。本スタディーツアーでは、現地の大学生とフィールドワークを行い、SNS動画作成に挑戦するツアーです。

首都・台北の観光地や食べ物、風景や文化の違いなどをテーマに、チームワークとしてテーマに沿ったSNS動画の作成を行います。HIS台北支店のメディアチームがクリエイター講座を実施するので、初心者でも大丈夫です。そして最終日に、HIS台北支店スタッフに向けて制作物の発表を行います。

### 【フィンランド】

北欧の国フィンランドは、教育において世界的に高い評価を受けています。国際学力調査PISAでは、読解力・数学リテラシー・科学的リテラシーの分野で2003年、2006年に世界1位または2位の評価を受けており、世界幸福度ランキングでも2018年から6年連続で1位に輝いています。

首都ヘルシンキでのスタディーツアーでは、子どもの遊び場や、子ども向けコンテンツが充実した施設（子ども文化センター、博物館「子どもの町」）を巡り、チルドレンファーストの子育て環境を巡っていきます。

## 【フィリピン】

アジア屈指のリゾート地として人気のフィリピン・セブ島。真っ青で美しいビーチは世界中からの観光客を魅了します。その一方で、リゾート地のあるマクタン島から車でたった30分の場所では、貧困層の人々が暮らしているという現実があります。1日2ドル以下の生活費で路上やスラムで暮らす人々も多く、また家族のために物売りなどで収入を支えざるを得ない子どもたちも存在します。

厳しい環境下の中でも明るく前向きに生活している彼らの暮らしの実情を知り、交流することで多方面から貧困問題を知り、国際協力のあり方や貧困層の人々の未来・自立について考えます。また、フィリピンの子どもたちが普段なかなか触れることのない日本の文化や暮らしについて教える企画もあります。



◆スターディーツアーをご検討している方やご相談希望の方は、以下連絡先までお気軽にお問い合わせください。

淑徳大学国際交流センター（東京キャンパス7号館1階）

TEL：03-5918-8253

メール：kokusai@daijo.shukutoku.ac.jp



### 【編集後記】

今回発行のニューズレター第2号では、長期休暇中のスターディーツアーについてご紹介しました。一般的な海外旅行でも2~3週間滞在しますが、その国のアピールポイントなる観光地を廻って楽しさを満喫するというのがほとんどです。スターディーツアーでは、職場体験、教育施設巡り、そして貧困コミュニティ理解など、むしろ日本国内でもなかなか経験出来ないことを他国で実現できます。語学力だけが重要なのではないと感じ取ってもらえると思いますので、学生の皆さんのチャレンジを心待ちにしています。

（記・土谷 庸）

淑徳大学 国際交流センター NEWS LETTER 2024 第2号

発行日：2025年3月31日

編集：淑徳大学国際交流センター

TEL：03-5918-8253（部署直通）

E-mail：kokusai@daijo.shukutoku.ac.jp